

はあとふる

Heartful 2015.1

地域の皆さまに、心(Warm Heart)と知識(Cool Head)と技術(Beautiful Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌



■特集 私たちにできることは、ご利用者・ご家族を真ん中に いろんな職種がチームで支援することです

インタビュー

ケアマネジャーのお仕事

まめ知識

人工膝関節置換術について

トピックス

「老いを楽しむ塾～エンジョイ・エイジング～」を開催しました
平成26年度 リフレッシュアップ研修が行われました

“Cafe” Infection Control

「古人の跡をもとめず 古人の求めたところをもとめよ」 芭蕉

芭蕉は「求めるべきは、先人たちの遺業の形骸ではなく、その人の理想としたところである」と言いたかったと思います。結果にこだわるのではなく、ゴールに向かう経過にこそ価値があるという意味かもしれません。

組織運営は、結果がすべてですが、ヘルスケア事業は、徹底して質が問われる分野です。私たちは良質のケアをチームで追求することに誇りを持っています。質の追求の過程が、結果として健全な財務状況につながると信じています。良いケアを効率的に提供する仕組みを作り上げることに成功した組織が、社会や地域から信頼を受け評価されて、最終的には生き残るはずだと考えています。

「覚悟」を決め、島田病院の新築に着手しました。

どのような年齢の、どのような身体的な悩みであっても、私たちが得意とする分野について、ご本人の尊厳を守り、QOLを維持・向上させるケアを提供すれば、社会に受け入れていただけるに違いないと確信しています。これからもその方針を貫き、磨き、顧客の皆様のニーズに、そして、地域や社会からの期待や要望に、丁寧に応えていかねばと誓っています。

本年もなお一層のご支援を、よろしくお願いいたします。



理事長 島田永和



島田病院、八尾はあとふる病院は
「病院機能評価認定病院」です。

はあとふるグループ

医療法人(財団) 永広会
社会福祉法人 はあとふる

私たちにできることは、ご利用者・ご家族を真ん中に 「その人がその人らしく」を大切にして リハビリ・介護・看護・ケアマネ・医師・栄養・相談員・事務 いろんな職種がチームで支援することです

老健悠々亭は在宅強化型老健として、在宅復帰に力を注いでいる施設です。そのためにもリハビリに力を入れています。また、認知症や体調管理そして看取りも重要な役割と考えて取り組んでいます。

老健という施設だけの取り組みではなく、通所リハ・通所介護・訪問介護・訪問看護・訪問リハ・サービス付き高齢者向け住宅そしてケアマネ（介護支援専門員）と、さまざまなサービスをつなげることで「地域の高齢者・介護者の生活、そして、その人生を支えたい」と私たちは思っています。



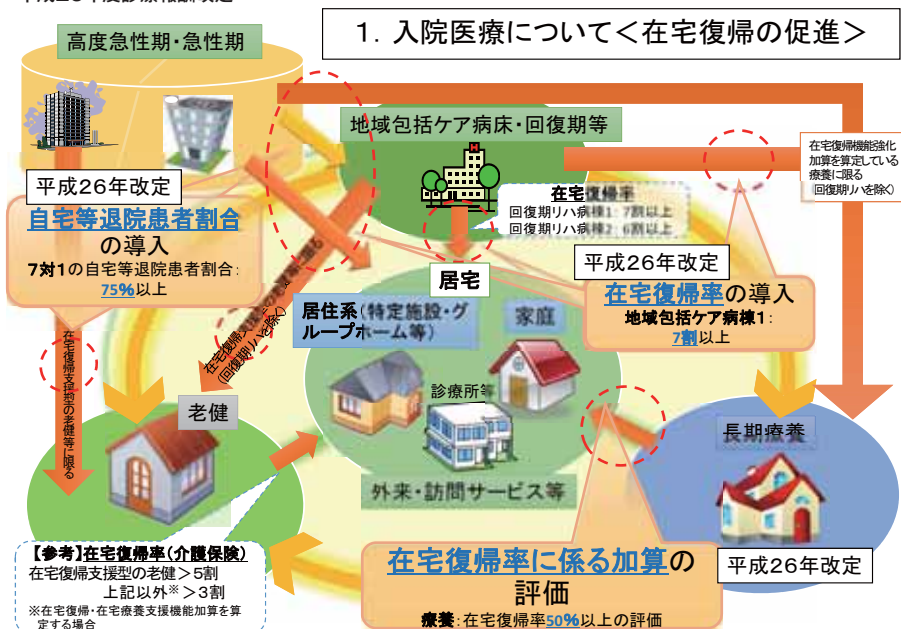
老健 悠々亭は、在宅強化型老健です

平成24年度の介護報酬改定で、老健は2つに分類されました。在宅強化型老健と従来型老健です。在宅強化型老健は、在宅復帰率などにおいて厳しい条件が設定されています。在宅復帰率50%以上、要介護4または要介護5のご利用者が35%以上などです。このような条件を満たしている老健は、全国に約3,500ある施設のうち、約200施設（約6%）ほどの少数派で、容易に達成できない基準であることがわかっていただけたと思います。私たちが長年取り組んできた在宅生活を支援する運営は、この条件をクリアしていました。

平成26年度の医療報酬改定では、在宅復帰を支援する取り組みの必要性が、さらに加速されました。医療機関でも、在宅復帰率がさらに厳しく設定されたのです。例えば、高度急性期・急性期の病院ですと75%以上の在宅復帰率を維持しなければなりません。しかし実際には、急性期治療を終えても障がいが残ってしまったり、継続した医療や看護、介護、リハビリが必要で、直接自宅へ退院することが難しい場合もあります。

そのため、さまざまな役割を持った地域の施設が連携することが求められます。在宅強化型老健をはじめ、在宅復帰することを目的とした施設は、病院から自宅へ退院した扱いとなるので連携しやすくなったとも言えます。

平成26年度診療報酬改定



悠々亭の在宅復帰を支える 介護・リハビリの取り組み

現場でリーダーシップを発揮する
介護課 主任 山崎加奈さん、
リハビリテーション部 リーダー 鈴木陽子さんから
話を聞きました。

悠々亭のリハビリ

リハビリと言えば、リハビリ室で、マンツーマンでのリハビリをイメージされる方が多いのではないのでしょうか。悠々亭のリハビリは、その方の居室や廊下、トイレなどで行います。食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴など生活を営む上で欠かせない動作を日常生活動作と言います。悠々亭をご利用される、ほとんどの方が、急性期のリハビリを終えられた方々ですので、まず実用性が高い日常生活動作を取り戻すリハビリを行うようにしています。

また、入所前後にケアマネジャーや理学療法士が自宅へ訪問しています。その方が戻られる生活場面を確認することは大切で、そこで得た情報をもとに一人ひとりに応じたリハビリやケアを行うようにしています。例えば、悠々亭の居室をできるだけ自宅に近い環境にしたり、どうやってこれまでの生活習慣をいかした施設生活を送っていただくかを考えます。自宅に近い環境でリハビリをしていくことが大切なことだと思っています。

ご自宅へ退所するには、介護者への支援も大切です。特に、初めて介護する場合のご家族は多くの方が不安を抱えています。例えば、仕事と介護の両立ができるか、自分のすべてを犠牲にした介護生活になるのでは?と心配が尽きないと思います。私たちは、ご本人だけでなく、そのご家族の思いも取り入れたケアを心がけるようにしています。これまで知らなかった、介護保険サービスの利用など社会資源を利用することによって、ご家族さんから「不安だったけど、これならいけそう!」と言ってくれることもあります。



左から
リハビリテーション部
リーダー 鈴木陽子
介護課主任 山崎加奈



面会にこられた、ご家族とのコミュニケーションを大切にして、思いや悩みを話せる関係性を築き、そして、在宅介護にチャレンジしてみたいと思っていただけると嬉しいです。

スタッフを育成する

はあとふるグループには、在宅生活を支えるさまざまな事業所があります。その利点を生かして、看護・介護・リハビリなどのスタッフが老健から在宅サービスの事業所(訪問や通所サービスなど)に兼務や異動することで、経験を積む取り組みを行っています。ここで得た経験・知識を基に、スタッフ一人ひとりが自宅で生活するために必要な視点を身につけることができます。こうして身についた知識や技術を悠々亭に入所された方にも提供することができています。また、毎月、全職員を対象に勉強会を開催しています。全職員を対象とすることで、幅広い領域の知識を習得することができるし、いろんな職種同士がコミュニケーションをとるための良い機会にもなっているので、チームでケアをしていく力を強めることに役立っています。

外部研修にも積極的に参加しており、皮膚・排泄ケア認定看護師、認知症介護指導者、認知症ケア専門士、などの専門性の高い資格を有するスタッフがいろんな場面で活躍しています。



笑顔が喜び

地域で暮らす高齢者の在宅生活を支える取り組みは、はあとふるグループだけで完結するわけではなく、地域の医療機関や介護施設、行政、民生委員をはじめとした地域の方々とながっていないと支えきれものではありません。グループ内だけでなく、地域とのつながりを大切にして、総合的なケアに取り組んでいます。

私たちは、ご利用者・ご家族を真ん中にして、地域ともつながりを持ち、みんなが笑顔になることを喜びとしています。

介護スタッフとしての経験を活かした ケアプラン作成に取り組んでいます。



介護老人保健施設 悠々亭 地域連携部 ケアマネジャー 下岸淳子

介護老人保健施設 悠々亭には、ご利用者の生活や在宅復帰を支援するためのスタッフがいます。さまざまな職種の中に、「ご入所中のお一人おひとりにあわせた介護サービスの計画書(ケアプラン)を作成する」スタッフがいます。今回は、在宅強化型老健である悠々亭で介護支援専門員として働くことの、楽しさと難しさについて話を聞きました。

介護支援専門員になるまで

介護支援専門員の資格は、約7年前に、以前勤めていた職場で取得しました。介護職だった私が介護支援専門員として働きだして2年目になります。まだまだ知識不足で、日々、学ぶことばかりです。

個性のあるケアプランを作成しています

施設にいるケアマネジャーは、ご利用者が入所されている間のケアプランを作成し、ご利用者にあった個別の介護支援計画をたてていきます。個性のある計画をつくるために大切なことは、ご自宅での生活環境を確認することやご利用者の身体レベルを把握すること、ご利用者やご家族の思いを聞き取るなどのアセスメント(評価)をしっかりとすることです。そして、ご利用者やご家族から聞きとった思いを目標にして、それらを達成するために必要な具体的手順を考えていきます。例えば、ご自宅の生活に合った福祉用具などの準備や身体機能をリハビリによって維持・向上させること、日常生活の中でもおこなうことができる生活リハビリを取り入れていくことなどです。こうして完成した、その

人だけのケアプランは、ご本人、ご家族に説明して同意を得たうえで実行していきます。

ズレをなくしていく

こうしてできたケアプランをもとに、ご利用者に対して多職種がケアを提供していきます。ここでの私の役割は各職種のケア内容を把握し、目標に対するズレが生じてないかを確認することです。もし、問題があった場合には、多職種との話合いの場を設けて、話合いをすることもあります。また、すべてのご利用者に対して定期的にカンファレンス(会議)を行っており、多職種で話しあうようにしています。ここでは、ケアマネジャーとして、ご利用者ご家族の思いによりそう意見が出せるように心がけています。

ケアマネの仕事は、奥が深く、毎日、悩みながら取り組んでいます。大変な仕事ですが、ご本人やご家族が目標を達成でき、笑顔を見ることができた時が、一番うれしく、やりがいを感じる時ですね。



カンファレンスの様子

人工膝関節 置換術について



■島田病院 整形外科 医長 佐竹信爾

人工関節の手術についてよくあるご質問に、人工関節の手術を多く執刀している佐竹科長が答えました。

Q 人工膝関節置換術とはどのような手術ですか？

A 変形性膝関節症など傷んだ軟骨や骨を切除して人工関節に入れ替えます。骨の部分は金属製で超高分子ポリエチレンという素材がクッションの役割になります。

Q 手術を受けるメリットは？

A 関節の痛みが軽減され、動きが楽になります。変形していた足がまっすぐになります。

Q 手術は痛いですか？

A 手術は全身麻酔で行い、眠っている間に終わります。手術中に膝の中に痛み止めの注射をして全身麻酔から覚めた後の痛みを抑えます。手術翌日から飲み薬の痛み止めを使用します。

Q 手術前にしておくことは？

A 高血圧、糖尿病など持病がある場合はかかりつけの先生と連携して病状確認をします。状態によっては手術が延期になることがあります。虫歯や歯周病などの歯の治療や水虫、湿疹など皮膚の治療も手術前にしておきましょう。
口の中や肌荒れから手術した部分に細菌が入ることがあります。タバコを吸っている方は禁煙しましょう。

Q リハビリテーションと入院期間は？

A 手術翌日からリハビリを開始します。筋肉の訓練、膝の関節を動かす訓練、歩く訓練をします。2〜3週間後に杖で歩けるようになったら退院です。ただし、キズの状態はリハビリの進行具合などで、もう少し長くなる場合もあります。

Q 手術後症状が残ることはありますか？

A はい、あります。
①スジの痛み:膝周囲のスジがつっぱり痛みが残ることがあります。手術でスジはほぐれませんが、リハビリを頑張りましょう。
②曲がり:平均120度位になり正座が出来なくなります。
③皮膚神経の痛み:キズの周りの感覚が鈍くなることやピリピリとした痛みがでることがあります。痛みの程度によってお薬が必要なこともあります。
④違和感:器械は改良されていますが、正常の膝の動きを再現できるわけではないので違和感や不安感を訴える方もおられます。

Q 最近改良されたことは？

A ①以前は全ての方に手術前に貯血(※1)をしていましたが、膝の中に止血剤を入れることで出血量が減り、殆ど輸血なしで行えるようになりました。
②キズをテープで固定し抜糸がなくなりました。
③膝を冷やすアイシングマシーンを導入しました。

Q 手術費用はどのくらいですか？

A 医療保険では高額療養費制度(※2)というものがあり、年齢や世帯所得により1ヶ月あたりの支払い限度額が決められています。また更生医療(※3)という制度もあります。詳しくは事務員へ相談してください。

※1 貯血:手術などに備えて自己血輸血のための血液を採取保存すること。

※2 高額療養費制度:公的医療保険における制度の一つで、医療機関や薬局の窓口で支払った額が、暦月(月の初めから終わりまで)で一定額を超えた場合に、その超えた金額を支給する制度です。

※3 自立支援医療(更生医療):身体障害者福祉法第4条に規定する身体障害者で、その障害を除去・軽減する手術等の治療によって確実に効果が期待できるものに対して提供される。更生のために必要な自立支援医療費の支給を行うものです。肢体不自由の場合ですと人工関節置換術等が該当します。

「老いを楽しむ塾～エンジョイ・エイジング～」 を開催しました

平成26年9月10日(水)藤井寺市「パープルホール」で、介護老人保健施設 悠々亭が主催して、公開講座を開催しました。誰にでも訪れる「老い」を楽しむための内容で、当日は200名もの地域のみなさまにご参加いただきました。当グループ理事長の健康寿命についての講演と理学療法士・トレーナーから運動実演をしました。

講演は50分の予定でしたが、みなさん熱心に聞き入っておられ、あっという間に時間は過ぎ、運動実演も音楽を使った内容もあり、楽しく行っていたことができました。「老い」というものは敬遠されがちなテーマではありますが、参加者アン

ケートには、「老いと上手に付き合っていくために必要な心と、運動の大切さが分かりました」「健康寿命を伸ばすためには運動が大切であることを学びました」などの感想が聞かれました。

今後も地域のみなさまと一緒に「老いを楽しむ」ための公開講座を企画していきます。詳細が決まりましたら、新聞折り込みや羽曳野市広報などで案内させていただきますので、ぜひご参加ください。

※健康寿命……日常的に介護を必要としないで、自立した生活が普通におくれる状態



八尾はあとふる病院公開リハビリテーション講座のご案内

◆第1回「健康寿命をご存じですか？」

平成26年7月9日(水)開催 参加者147名

◆第2回「健康寿命を延ばしましょう」

平成26年11月19日(水)開催 参加者119名

●開催場所……………
八尾市文化会館 プリズムホール 5Fレセプションホール

第3回

講演「動いて治そう! 関節痛」

実技「今日からできる! ヒザ・腰の体操」

平成27年2月18日(水)開催予定

●お問合せ……………
Tel 072(999)6381 八尾はあとふる病院 公開講座係まで

島田病院公開講座のご案内

◆「腰痛・坐骨神経痛の治療～慢性化しないための生活と身体作り～」 平成27年1月22日(木)

◆「肩・腰・ひざの痛みはどこから?」「～肩甲骨の動きからみた五十肩の対策～」 平成27年1月29日(木)

◆「変形性関節症の治療～変形とうまくつきあうための対策～」 平成27年2月5日(木)

●開催場所……………
堺市立東文化会館フラットホール
堺市東区北野田1084-136

●お問合せ……………
Tel 072(953)1001 島田病院 公開講座係まで

※詳細につきましては、ホームページ、チラシ等でご案内させていただきます

平成26年度 リフレッシュアップ研修を行いました

10月25日～10月26日、汐由温泉研修センターで開催しました。参加者は、今年度入職者、上長推薦者、先輩職員となっており、職種・施設問わず、メンバー交流の場となりました。この研修では、物作りやワークショップを行い、楽しみながらリーダーシップ、メンバーシップを学びます。研修内容は、真っ暗の中で、あるミッションをグループ全員で達成する暗闇研修から始まり、“はあとふるグループにあると素敵な物を”と題して、グループ全員で物作りを行いました。物作りの材料は、

100円ショップで購入できる物と制限しましたが、完成品は実際の現場で使用してもらえることもあり、どのグループも予想以上のできあがりでした。

2日間の研修を終えて、達成感で満ちあふれているような笑顔を参加者から見る事ができました。入職して半年程で、普段は業務に追われる日々を過ごしている参加者にとっては、良いリフレッシュの場となったのではないのでしょうか。



平成26年に実施した講座内容

日 時	テーマ	講 師
4月1日～4月5日	新入職員研修	今年度、はあとふるグループに入職した職員を対象とした研修です。社会人として、ヘルスケア従事者として必要な知識を学びます。講師は全員はあとふるグループのスタッフです。
5月24日	フォローアップ研修①	入職2年目職員の研修です。自分が勤務している現場での問題点を抽出し、対策を検討します。アサーティブコミュニケーションについても学び、実務のスキルアップを図ります。
7月5日	コミュニケーション研修	社会人・医療従事者としての基本的なマナーと会話でのコミュニケーションを学びます。チームケアを実践するために必要な研修です。
7月26日	フォローアップ研修②	入職3～6年目職員の研修です。自分が勤務している現場での問題点を抽出し、対策を検討します。グループごとで倫理問題を考え、意見交換を行います。
8月9日	羽曳野エリア目標設定研修	目標管理制度を理解し、育成面談のロールプレイングを行うとともに、面談に必要なスキルの向上を図ります。
8月16日	八尾エリア目標設定研修	
8月28日	上期消防訓練	全スタッフを対象とした研修です。火災発生時に備えて昼間・夜間想定避難訓練・講習を行います。
8月28日	安全運転講習会	全職員を対象としており、運転時の危険察知や事故防止などを学び、送迎もサービスの一環として、より安全な運転を心掛けることを周知することを目的とした研修です。
8月25日	八尾エリア感染対策研修会	感染予防を目的とした研修会です。感染管理認定看護師を講師として行いました。
9月4日・9月18日	羽曳野エリア感染対策研修会	
9月10日	介護エリア個人情報勉強会	職員を対象とした研修です。個人情報の取り扱いについての大切さを学びます。
9月13日	考課者研修	考課者を対象とした外部講師による研修です。人事制度を理解し、育成面談に必要なスキルの向上を図ります。
9月27日	フォローアップ研修③	入職7年目以上の職員の研修です。主に、ワークショップを行い、さまざまな気づきを得ます。
10月25日・26日	リフレッシュアップ研修	今年度入職者した職員・上長推薦者を対象とした研修です。一つの目標に向かって、グループが達成できるように取り組むことで、目標達成のためのスキルを学びます。
11月1日	フォローアップ研修④	上長推薦者を対象とした研修です。明るく生き生きと働ける職場づくりのために必要なことを、自身を振り返り、感じて学びます。
11月29日	フォローアップ研修⑤	サブリーダー以上の役職者を対象とした研修です。内部分析を行い、職場の問題点を抽出し、活躍の場を広げ、コーチングスキルの向上を図ります。

はあとふるグループ 使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

はあとふるグループ 理念

その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを



はあとふるグループの基本方針

1. 「確かな知識と技術」を追求します
2. 「心に届く」を追求します
3. 「安全」を追求します
4. 「信頼でつながるチーム」を追求します



Cafe Infection Control

感染管理認定看護師がお届けする感染対策情報

法人本部 感染・安全管理担当

感染管理認定看護師 森下 幸子

新しい感染症は、身近な感染症になってしまう

この夏「デング熱」という感染症が、国内に拡大しました。昔に比べて冬も暖かい環境が多いですので、引き続き注意が必要な感染症です。

詳しくお話ししますと、ネッタイシマカなどの「蚊」によって媒介されるデングウイルスの感染症で、東南アジアなど亜熱帯地域で発生しています。

症状は、感染3～7日後、突然の発熱で始まり、頭痛、特に眼窩痛・筋肉痛・関節痛を伴うことが多く、食欲不振、腹痛、便秘を伴うこともあるそうです。そして、発症後3～4日後より胸部・体幹から始まる発疹が出現し、四肢・顔面へ



ネッタイシマカ (衛生昆虫写真館より)

広がり1週間ぐらいで発疹も消え、後遺症なく回復するといわれています。しかし、一部で「デング出血熱」として重篤になる場合がありますので、やはり「蚊」に刺されないようにするべきでしょう。

また、家の周辺などは水が貯まらないように掃除も欠かせません。そして、今注目すべき感染症は「エボラ出血熱」ですね。私たちは、簡単に色々な国へ行き来することができるようになりました。これから、秋旅行へ行かれる方も多いのではないのでしょうか？必ず、海外旅行へ行く前に、厚生労働省検疫所のホームページFORTH(<http://www.forth.go.jp/index.html>)をご確認いただき、予防に努めて下さい。これは、ご自身を守るためでもあります、国内に感染症を持ち込まない上でも重要です。



はあとふるグループ

●医療法人(財団) 永広会

島田病院 ☎072-953-1001
Eudynamics はびきのヴィゴラス ☎072-953-1007
介護老人保健施設 悠々亭 ☎072-953-1002
在宅介護支援センター 悠々亭 ☎072-953-1003
介護サービスセンター ゆうゆう亭 ☎072-953-5514
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

ヘルパーステーション 悠々亭 ☎072-953-1062
訪問看護ステーション ハートパークはびきの ☎072-953-1004
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

八尾はあとふる病院 ☎072-999-0725
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる ☎072-999-8126
〒581-0815 大阪府八尾市宮町2-10-22

●社会福祉法人 はあとふる

ゆうゆうハウス 通所介護 サービス付き高齢者向け住宅 ☎072-931-1616
〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10